

# 徳島大学における「科目ナンバリング・システム」 作成の試みと今後の展望

上岡麻衣子、川瀬和也、川野卓二  
(徳島大学 総合教育センター)

## 1. はじめに

2013年に本学が策定した「徳島大学機能強化プラン」に、教育課程の体系化・可視化ならびに改善のための取り組みとして、「共通教育との連携を図り、ナンバリングの導入を推進し、カリキュラムマップを作成」することを掲げている<sup>1)</sup>。実際に、2014年度から2年間、質保証の分野別ワークショップを実施し、カリキュラムマップの作成や、本学で実施されている授業科目について、授業内容・レベル等に応じて特定のナンバーを付与する作業に着手している。2016年度から科目ナンバリング・システムが全学で稼働されることから、本発表では、本学の科目ナンバリング・システム作成の基本ルールを紹介するとともに、他大学のナンバリングの取り組みを鑑みることで見えてくる現状の課題について議論を行い、今後の展望について考察する。

## 2. 科目ナンバリングの効用

科目ナンバリングは、学生側の視点として、どの科目から学修していけば体系的に学修することができるかが分かるようになり、計画的な学修が実現できたり、海外大学と同様のナンバリングコードを付与することにより、海外からの留学生や海外へ留学する日本人学生にとって、授業のレベルが分かりやすくなるというメリットがある。また、学部・大学院側の視点として、カリキュラムに分野の偏りがないか等の点検が容易となり、各学部などで体系的な教育プログラムの実現に向けた改善がしやすくなるというメリットがある<sup>2)</sup>。

## 3. 科目ナンバリング・システムの基本ルール

始めに、科目ナンバリング・システムの意義や

概念を理解するためにテンプル大学の島田敬久氏による講演会と総合教育センター教育改革推進部門教員による説明会を実施した。その後、各学部の教務委員会等で、徳島大学における科目ナンバリング・システム作成の具体的な方法を説明し、各学部・学科・コースから選出された教員がナンバリングの作成を行った。作成の基本ルールは、図1のとおりである。

- ▶ 科目領域コード(英字)+科目番号(4桁の数字+言語コード)+学部・学科等コード(英字)の三つの要素を組み合わせて、各科目を表す科目コードを作成する。
- ▶ 科目分類(領域)コードは、その科目が属する学問領域に対応させる。
- ▶ 科目番号は、4桁の番号と1文字の言語コードから成る。このうち1桁目の数値はその科目のレベルを表し、次の3桁は授業方法を反映した個別の番号を、5番目の文字は授業を行う言語を示すこととする。
- ▶ 学部・学科等コードは、その科目を学部・学科・専攻コース等を表現する。
- ▶ セクション番号は、同一科目が複数開講されている場合に使用する。



図1 ナンバリング・システム作成の基本ルール

徳島大学では、学問領域コード(英字4文字)+4桁個別番号+言語コード(英字1文字)+学部・学科コード(英字3文字)+セクション番号(2桁数値)とした。

## 4. 現状の課題

質保証の分野別ワークショップにおいて見えてきた課題は次の通りである。

- ①共通教育と専門教育とのカリキュラムの関連がみえにくい。
- ②昨年度作成したカリキュラムマップとの関連性が十分でない。

- ③学部・学科・コースの枠を超え、他学部聴講等も視野に入れた、大学全体としてのカリキュラムの点検ができていない。
- ④科目ナンバリングによるカリキュラムの可視化が教員や大学にとって持つ意義や今後の活用方法等についての議論を十分に深められなかった。

## 5. 議論と今後の展望

ここでは、本学の課題を念頭に置きつつ、他大学の事例をもとに4つの論点で議論を行い、今後の展望について述べる。

まず、前節①②で指摘したナンバリングとカリキュラムマップの関連が十分でない点について、北海道大学では、ナンバリングの実施に伴い、カリキュラムマップの作成を同時に行っている<sup>3)</sup>。カリキュラムマップ内にナンバリングコードを示すことで、学部側の視点として、カリキュラムの全容を把握し、開講科目の順次生と授業のレベル、学問分野を確認できる。学生側の視点として今後の履修の流れを視覚化し、計画的な履修を可能にしている。また、全学共通教育科目から専門科目に強く関連する授業科目を科目同士のつながりがわかるように示している。本学では、ほとんどの学部・学科・コースのカリキュラムマップが全学共通教育科目という一つの科目のまとまりとして示されているので、徳島大学機能強化プランに掲げている「共通教育との連携を図る」上でも、専門科目とのつながりが分かるカリキュラムマップとナンバリングにしていく必要がある。

次に、前節③で指摘した他学部聴講等も視野に入れたカリキュラムの点検について、新潟大学は、教養科目と専門科目の垣根を取り払い、他の学部が専門とする授業科目でも、自由に選択し履修することができる「全学科目」という統一的な区分にまとめている<sup>4)</sup>。本学でも自由に選択できる授業科目数が増えれば、学生の主体的な学びを確立することにつながり、また、学部側も、科目同士の整理・統合と連携により、教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。

さらに、前節④で指摘した意義や活用方法につ

いて、カリキュラムの可視化を進める上で、ナンバリング作成の持つ意義について、カリキュラムマップ作成時から視野に入れた議論を行っておくべきであった。今後は、両作業の手順見直し等に関わるガイドラインの整備が求められる。また、ナンバリングの今後の活用方法について、学生が履修計画を立てる際に活用してもらえるように学部側が、わかりやすく提示することが重要である。毎年入学生に行っているアンケート結果で、「全学共通教育や学部学科の教育・学習目標と履修の仕方は理解できましたか」の項目で「どちらかといえば理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」と回答した学生が、学科毎に2割から3割ほどいることからその必要性を感じる<sup>5)</sup>。テンプル大学では、ナンバリングを修学支援に役立てている。修学支援を行うアカデミック・アドバイザーが存在し、学生一人ひとりに対し、入学から卒業まで学習全般の指導、助言および相談を行い、効果的な学習を支援している。テンプル大学の島田先生が、講演会の時に、「ナンバリングを導入しても浸透しなければ意味がない」と言われたことから、今後、本学でも学生の修学支援や履修計画を立てる際にナンバリングやカリキュラムマップが活用されれば、学生、教職員に広く周知できるのではないかと考える。

## 参考文献

- 1) 「徳島大学機能強化プラン～国立大学改革基本的考え方に基づいて～」, 2013.
- 2) 徳島大学科目ナンバリング・システム作成について, 2015.
- 3) 北海道大学教育改革室「順次生のある体系的な教育課程の構築に向けて～ナンバリング実施の手引き～」北海道大学, 2013.
- 4) 平成27年全国大学教育研究センター等協議会資料, 2015.
- 5) 三笠洋明：大学入門講座・オリエンテーションアンケート分析結果, 2015.